

グローバル・キャリア・デザイン3 (FSP 北米) 報告書

学部：医学部保健学科検査技術科学専攻 学年：1年（参加当時）

1. 学習の成果について

このプログラムに参加する前は海外で留学するために一番重要なのは英語力だと思っていた。しかし2週間という短い間であったが現地で生活してみて少なくとも大学の勉強や授業以外においては英語力は一番必要とは思わなかった。では何が一番必要と感じたのか。それはコミュニケーション力だ。

一見して英語力はコミュニケーション力のひとつに見えるかもしれない。確かにそうなのだが、ここで言っているコミュニケーション力は直接人と接するときの言語以外の要素のことだ。ひとつには外から見てわかる面で、例えばボディランゲージや表情、ことばの抑揚だ。これはどこでも鍛えることは可能だと思う。しかし鍛える機会がないし、日本にいて日本人同士で日本語で話す場合はそこまで気にすることもしないので、意識的に鍛えようとしなければなかなか身につかないと思う。アメリカに行って具体的に感じたことは、一生懸命伝えようと努力すれば英語が追いついていなくても伝わった。レストランで何か注文するときやお店で買い物するとき、道で現地の人に道を聞きたい時などあの単語なんだっけ.. と思っても体を使ったりしぐさとして通じた。長期の留学をするとき日常生活をこなしていく自信に繋がった。アメリカに行く前の目標達成自己評価シートには漠然と英語の勉強をすると書いたが、実際に海外に留学することを考えると日常会話の英語と大学の授業で使う英語と二種類に大別されると感じたため、そのことを意識しつつどっちの力を今鍛えているのか考えたり海外で留学している自分をリアルに鮮明に具体的に想像しながら勉強しようと思った。

目標達成自己評価シートには「人前に立った場面で人の質問に対して緊張してうまく考えられない。後から落ち着いて考えてみるともっと良い答えがあったのに、と後悔することがあるのでそういった経験を減らせるようになりたい。」と書いていた。加えて書く授業中に発言するのを控えていたのは間違えるのが怖い、というのも大きな理由だった。これに関しては大きく考え方が変わった。アメリカでPSUとUmass Amherstの授業見学と時に本当に自由に授業中発言している現地の学生を見た。話には聞いたりテレビや映画でそういう場面を見たりしたことはあったが実際見ると本当にカルチャーショックを感じた。授業は教授だけでなく学生も参加して作りあげているのがひしひしと感じた。学生はそもそも間違いを恐れるなんて考えが思いつかないで授業受けている教授・学生全員で皆の考えを共有して皆で学習を深めていくという感じがした。なので今日のこの話を調べて深めていくともっと次の授業で役立つかもしれないと思って学習意欲につながるのかもしれないと感じた。

また、今回一緒にアメリカに行ったFSPメンバーでのミーティングの際も周りの人た

ちは自分から発言できる人がいて尊敬しているし、そういう風になりたいと思った。そのミーティングの際に自分が成長していると感じた。“そんな考えもあるのか！”と自分の考えの偏りもすごく感じているいろいろな方向の考えを知ることで幅が広がった。ある人の考えを聞いてそこから自分なりにその人の考えを整理していくことで、“自分では気づかなかったけど自分こんな考えもできるじゃん！”とも思うことができた。これからもっともっとうこういう経験をしたいし、自分みたいに考えが広がっていくのを感じる人が増えてほしいと思う。疑問に残っていることは、なぜアメリカ人は間違いを恐れないういマインドを持てるのか、そうするにはどうすればよいのかということだ。もっと現地の学生と交流してそういうところまで聞けると良かったと思う。

そのほか予期せず気づいた点は、日本人は周りを気にしすぎという点だ。これは上の周りの間違いを怖がるという点やアメリカが自由の国と言われる所以にもかかわると思う。具体的にアメリカで感じたのは、あくまで個人的になんとなく感じたことだが、街中でアメリカ人は周りの目をまったく気にしてない感じがした。純粋に自分の興味に応じて行動しているという感じ。だからこそ自分らしく好きなことをできる自由の国アメリカというものができているのかなと思った。対して日本人は周りを気にして目立たないようにでも周りより少しだけ上に立っていたい、というような大衆の思想を街中を歩いていて少し感じる。目指すべきなのはナンバーワンでもベターワンでもなくオンリーワン。そうすると目標達成自己評価シートの二つ目の項目を達成するに近づくと確信している。

2. セカンドステップに向けての行動計画

正直私は長期の交換留学したい！という気持ちにはまだなれなかった。理由は留学してまで勉強したいことが見つかっていないことだ。自分の専門の勉強を四月に始めたばかりでまだ浅く広く勉強している段階なので、まだまだ自分のしたいことが絞られていない。私は語学も英語だけでなくいろんな言葉を話せるようになりたいとも思っているのだが、語学留学は自分の専門の勉強のことを考えるとどっちも中途半端になってしまうかもしれないのでまだ考えていない。したがって今は、在ボストン日本国総領事館にてご講話をくださったアミール偉さんのお話の中にあつた、スティーブ・ジョブズの言葉を借りるとすると点を打っていく段階だと思うので、一つにはまずは自分の専門の勉強を必死にやって自分の好きな事・興味のあること・もっと勉強したいことを探す。個人的には無理に学部生のうちに長期留学する必要はないと感じているので、残りの三年間をいっぱい使って探っていきたい。

もう一つには海外インターンやボランティアに参加することで点をもっと打ってきたい。ボランティアについては今年新渡戸カレッジの授業を通してやりたいと考えている。そういった勉強やボランティアを通して自分のしたいことが具体的に決まってきた

たら長期の留学か海外インターンをしたいと思う。私の専攻は医学部保健学科検査技術科学というところで実際に病院で働く臨床をやりたいか基礎研究などの研究をするか進路の幅が広いので臨床をやりたいと思ったら海外インターン、研究をしたいと思ったら留学と考えている。が、これからいろいろ経験して新しい道を見つけられるかもしれない。

他には新渡戸カレッジの講演会に毎回出て様々な人のキャリアパスに触れて参考にしたい。特に医学系や国際機関(UNICEF、WHO、JICA 等)での勤務経験のあるかたの話を書く機会があれば大事にしたい。

いずれにせよアメリカに行った時の無数の気づき・感動・衝撃といった刺激が自分には本当に良かったと思っているので海外にまた行きたいと思っている。ただ、海外に行くだけでは高い効果性は得られないので海外に行く効果性を高めるためにも今は先に書いたことに熱を向けていきたい。

他には英語力の向上を目指す。聞いたところによると TOEFL は大学の授業を想定したアカデミックな内容が取り上げられるのに対して、TOEIC はビジネス状況下での伝達のような英語力が問われるということなので、前者が上の言い方では大学での英語、後者が日常会話での英語に近いのかもしれない。したがってできれば両方を受験して具体的な客観的数字を見つつ両面の英語を鍛えていきたい。できれば2年生のうちに TOEIC680点、3年生では730点、4年生では780点を現時点での目標にしようと思う。TOEFL ITP、TOEFL iBT、IELTS はそれに準じる点数を目標にする。2年生のうちに上の4つのテストすべて一度は受けてみたいと思う。理由は多方向から自分の英語力が見られるし、いざスコアが必要になったときテストの雰囲気がわかるので勉強がしやすくなるだろうと思う。

3. 今後の進路について

今回アメリカに行く前は自分の卒業後(修士・博士含めて)の進路は海外に出て働くか、いっそ地元に戻って日本の過疎地域・限界地域の医療を支えるか、のどちらかだと思っていた。でもアメリカに行ってみて海外に行くにもいろんな働き方の形があると感じた。今回お話を伺ったハーバード大学病院助教授の内田さんのように海外の中でも先進国(特にアメリカは医療の最先端!)で働き、高度な医療を勉強して臨床の現場に立つ人もいれば、臨床でなく海外の研究室で基礎研究や応用研究をして新たな医療を開拓していく道もある。また発展途上国で感染症の予防のような保健事業に従事する人もいるし、医療機器の十分でないアフリカの地域で現地の人を救う臨床のやりかたもある。現時点ではどれも楽しそうでやってみたいというのが本音だが、強いて言うなら内田さんのようなキャリアと国際機関で発展途上国の保健事業に努めるという二つの道がやってみたいと考えている。内田さんは生き方がとてもかっこよくて憧れて自分もそういう生き方をしてみたいと単純に思った。アメリカに行ってみて海外で働きたいと思うような

ったので就職は海外でしたいと強く思う。その方がよりたくさんのご経験をできると強く感じた。

4. 自由課題活動で得られたこと

5. FSP 参加を考えている人へのメッセージ

FSP は海外経験の少ない人にフォーカスをあてたプログラムです。自分がそうでしたが、本当にいろんな刺激を受けた二週間でした。海外でしか感じられなかった生の経験をたくさんできました。二週間自分がしたことすべてを記録していつでも思いだせるようにしたいと思うくらいです。自分の後悔はこういった感じたことを全部記録できなかったことです。その時感じた新鮮な記憶を残しておけばよかったです。逆に言えばペンが追いつかないくらいそれだけいろいろなことをたくさん感じられる濃い時間を過ごせました。

準備すべきことはやる気が一番大事ではないでしょうか。自分は FSP を通してどうなりたいか、こういうことを知りたいという目的意識をしっかりと決めて参加するのが最重要です。他には+αとして英語の勉強でしょうか。この FSP は自分の今の英語はどれくらい通用するのか、現地の英語と今まで勉強した英語とのギャップは何か、それを知ってどうこれから英語と向き合っていくのか、というきっかけの意味が強いと思うので必ず勉強が必要とは思いません。強いて言うなら買い物するときや気軽に現地の人と話すときの受け答えなど現地での生活をイメージした勉強をすると良いと思います。

もちろん現地の大学生との交流や FSP の醍醐味の一つである企業訪問を通して新たな考え方を得られることもありますし、一緒に参加する北大の仲間からも私は大いにいろいろなことを学びました。同じ北大生というだけでバックグラウンドが全然違ってかつ自分同様何か変わりたいと思っている人の考えを知ることが私が感じた FSP の大きな魅力です。実際に行ったときはとにかく何事も積極的にやってほしいと思います。恥ずかしいとか怖いとか思ってしまうと可能性をつぶさないでほしいです。なので参加を迷っている人がいれば是非参加してほしいと思います。私のように海外経験が少ない人には特に日本に居ては思いつかなかった考えにたくさん出会える貴重な機会です。